



特色を持った各地区

木更津南部地区 ～物流関連ゾーン～



木更津南部地区は、公共岸壁を中心とした物流拠点として、物流生産・都市機能などが集約されています。

内貿貨物として、県内で産出される砂利・砂を建設用材として関東近県に移出するとともに、他地域からの受入れも行っており、木更津港の主要貨物として地域の経済活動を支えています。

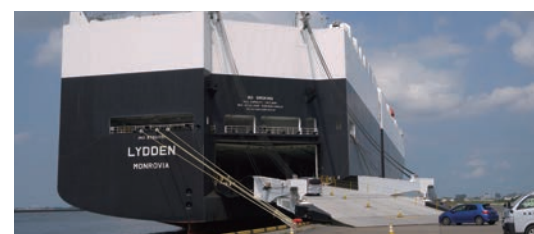
また、外貿貨物に対応するため、平成8年4月には木更津埠頭G岸壁、平成20年3月には木更津埠頭H岸壁を供用開始し、30,000D/W級の船舶が接岸できるよう整備されました。近年では、完成自動車(中古自動車)の輸出が活発であり、ニュージーランドやアフリカなどへの輸出拠点へと成長しつつあります。また、大型クルーズ船の誘致や伊豆大島への高速ジェット船の実証実験など、港を活かした街の活性化の取組も進められています。

●木更津南部地区

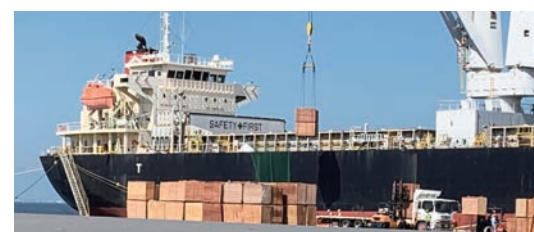
施設名	施設概要				主な取扱貨物(R5)
	延長(m)	所定水深(m)	エブロン幅(m)	対象船舶(D/W)	
木更津埠頭物揚場	362	－ 4.0	10.0	500	砂利・砂
A岸壁	90	－ 5.5	15.0	2,000	砂利・砂
B岸壁	90	－ 5.5	15.0	2,000	砂利・砂
C岸壁	90	－ 5.5	15.0	2,000	砂利・砂
D岸壁	90	－ 5.5	15.0	2,000	砂利・砂
E岸壁	130	－ 7.5	20.0	5,000	砂利・砂
F岸壁	130	－ 7.5	20.0	5,000	砂利・砂
G岸壁	240	－ 12.0	20.0	30,000	完成自動車
H岸壁	260	－ 12.0	20.0	30,000	完成自動車
潮浜埠頭A・B・C・D岸壁	240	－ 4.5	15.0	700	砂利・砂



砂利・砂の荷役



中古自動車の荷役



木製品の荷役

吾妻地区 ～賑わいと親水ゾーン～



吾妻地区は、木更津港発祥の地で木更津市の海の玄関口であり、中心市街地に隣接する立地条件を活かした地域住民の憩いの場として、緑地を中心としたレクリエーション施設・旅客船埠頭施設・物揚場等の施設整備が計画されています。

吾妻地区にある内港公園は、中心市街地に接する臨海広場で、「みなとオアシス木更津」を構成する施設の1つでもあり、イベント時の交流スペースとして活用されています。

みなとオアシスとは、海浜・旅客ターミナル・広場などみなとの施設やスペースを活用して、住民参加型の継続的な地域振興に関わる取組みが行われる交流拠点のことです。「みなとオアシス木更津」は、平成20年に首都圏初となるみなとオアシスの認定を受けました。

木更津港内港で毎年行われる“木更津港まつり”は多くの見物客で賑わいます。



木更津港まつり花火大会



木更津港吾妻地区



潮干狩りの様子